



石川県文「青手桜花散文平鉢」古九谷 17世紀
—古九谷の誕生と展開—より

■ 西洋へのあこがれ

—16代前田利為侯のコレクションから—

■ 古九谷の誕生と展開

- 第71回現代美術展
- 企画展Topics
- 平成27年度の展覧会
- 平成26年度の展覧会を振り返って
- ミュージアムレポート
- バスツアー募集
- 4月の行事予定
- 企画展Topics(画像)

第2展示室

古九谷の誕生と展開

3月25日(水)～4月14日(火) 会期中無休

古九谷の魅力は、しばしば豪放華麗という言葉で語られます。古九谷の大胆かつ斬新なデザインは、今日でも鮮烈な印象を与えます。その点が日本国内のみならず、世界各地の愛好者を魅了するゆえんではないでしょうか。古九谷の独創的なデザインが生まれた背景として、北陸の気候風土が関連しているのではないかと意見もあります。十一月から三月頃まで、確かに北陸は厚い雲に覆われ、雨や雪が時に強風をともなつて降り続きます。そこでこの雪国に生きる人々が、春の陽光を待ちわびる心情を古九谷のデザインに吐露したというところもあったでしょう。今号の表紙に紹介した「青手桜花散文平鉢」のような青手の作品に、ほぼ

する生命感を感じさせる作例が多いことも、古九谷の注目される特徴です。そして、青手を構成する色である緑、紫、青に対する好みは石川県が全国平均より強いという興味深い調査結果もあります。色に対する好みは地理的な特性、特に太陽光の照射量と密接な関係があり、北半球では北に行くほど寒色系への好みが強くなる傾向があります。そうすると青手もやはり北陸、特に加賀地方の気候風土から必然的に誕生したと言えることができるのではないのでしょうか。新幹線開業にともない、地域の文化的個性が再認識されつつあります。古九谷は石川県を代表する美術工芸品とされます注目されることを期待したいと思えます。



色絵唐獅子牡丹図平鉢 若杉窯

前田育徳会尊經閣文庫分館

西洋へのあこがれ

—16代利為侯のコレクションから—

3月25日(水)～4月14日(火) 会期中無休

大正十五年(一九二六)に十六代前田利為侯は、江戸時代に収集された加賀藩前田家のコレクションを維持管理するための(公益法人)育徳財団を設立し、その後、図書館や美術館の開設を目指して、さらなる作品の収集を進めています。昭和二年(一九二七)から同五年にかけて駐英大使館附武官として渡欧しましたが、その際に各界各層の友人・知人に依頼して熱心に収集したもののなかに著名人の自筆、いわゆるオートグラフがあります。第一回は同三年四月にナポレオン・ネルソン・ピョートル大帝・ウエリントン、第二回は同年十一月にリンカーン・エドワード・ナポレオンの筆跡をそれぞれ英国で入手しています。第三回は同四年二月にパリ

で、ヘンリー八世・モンロー大統領の二点を収集し、以後帰朝時まで、元首・統治者等三十五名、軍人六十一名、政治家二十五名、著作者ならびに詩人三十名、学者・探検家・発明家等十七名、作曲家・音楽家等二十四名、芸術家・俳優・声優等十七名、その他三名の総数二二二点を収集しています。その収集されたオートグラフは、厚紙の台紙に額縁状に切り抜いた台紙を貼りあわせ、一点一点を貼りつけて納め、その台紙を革製の表紙をもつ大型の冊子に製本し、整理保管されています。こうした点に五代藩主綱紀の事績を手本とする利為侯の姿が認められます。今回は作曲家と芸術家のうち、六名分を前期後期に分けて展示しています。

ラファエル・コラン「緑野に三美人」

加賀前田家 百万石の名宝 一尊經閣文庫の名品を中心に

4月24日(金)～6月7日(日) 会期中無休

前回の美術館だよりでは、展覧会の概要についてお知らせしましたので、今回は具体的な展示構成を紹介します。展覧会は、「武家の象徴―武器・刀剣・甲冑―」と「加賀文化の確立」の二章立てになります。加賀藩祖前田利家の遺言状に、「武道ばかりを重んじてはならない。文武二道の侍はまれだが、よくわきまえて良い者を探し出すように。たとえ譜代の家臣でなくとも、情をかけて召し使えばよい。」とあるように、利家は「武」と同様に「文」にも重きを置いています。そうした思いが、三代利常や五代綱紀にしつかりと引き継がれ、彼らの文化政策が花開いたといえます。殊に綱紀は、「文」を「学ぶ」という観点からとらえており、そうした指針が今日の前田育徳会・尊經閣文庫に受け継がれているといえましょう。

前田家の「武」を象徴する刀剣と言えば、国宝「太刀 銘光世作(名物 大典太)」（八ページ参照）、国宝「刀 無銘正宗(名物 太郎作 正宗)」、国宝「刀 無銘義弘(名物 富田郷)」の三振りです。この三振りがそろって公開されるのは、石川県ではもちろん初めてのことです。東京では昭和五十一年(一九七六)に東京国立博物館で公開されましたが、それ以来三十九年ぶりとなります。石川県立美術館では、「太刀 銘光世作」(名物 大典太)一振りが昭和五十八年(一九八三)の開館記念展に公開されて以来となります。こうした視点から見逃すことのできない貴重な展覧会となりますので、ぜひともご来館ください。

重文 刺繍菊鐘馗図陣羽織 前田利家所用

騎羊人物梅折枝文様金襴

第71回 現代美術展

3月28日(土)～4月14日(火) 会期中無休

昭和二十年十月に第一回展が開催された現代美術展は、本年七十一回展を迎えます。その間、文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめ、多くの実力作家を生み出し、その成果は「美術工芸王国石川」として大きく花開いております。

本展では、所属会派を超えて、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門から、石川県美術文化協会会員らの秀作に、一般公募からの入賞・入選者の意欲作を一堂に展示します。

◇部門

- ・日本画(第8・9展示室)
- ・彫刻(第7展示室)
- ・書(第3・4・5・6展示室)

※金沢21世紀美術館では洋画・工芸・写真が展示されます。

◇入場料(金沢21世紀美術館と共通)

	一般	大高生	中小生
当日	一、〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
前売り	九〇〇円	五〇〇円	四〇〇円
団体	八〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は、受付での会員証提示により団体料金になります。

◇作品解説

会期中、作品解説を行います。

◇開館時間

午前九時三〇分～午後六時

平成27年度も 当館の展覧会をお楽しみください

三月十四日、待望久しい新幹線が金沢までつながりました。平成二十七年度は北陸新幹線開業の年ということで、石川県を訪れるお客様をお迎えするにふさわしい石川ならではの企画を準備しています。

春は四月から六月にかけて「加賀前田家百万石の名宝―尊經閣文庫の名品を中心に―」をお届けします。前田家の歴代藩主は文化に深い関心を寄せ、美術工芸品や内外の文物を収集してきました。大正十五年に設立された現在の(公財)前田育徳会には、国宝三十二点、重要文化財七十六点を含むわが国有数の文化財が伝えられています。本展は前田育徳会の所蔵品を中心とした加賀藩前田家ゆかりの名品の中から、国宝十五点、重要文化財三十五点を公開するというかつてない規模による展示で、「加賀百万石の文化」の全貌を公開し、石川と金沢の魅力をご堪能いただける内容となっています。

秋は「没後30年 鴨居玲展 踊り候え」です。没



鴨居玲「出を待つ(道化師)」



氷見晃堂「大般若理趣分経之箱」



北大路魯山人「雲錦鉢」
世田谷美術館蔵

後三十年の時を経て、今なお多くの人を魅了してやまない洋画家鴨居玲をとりあげる十年ぶりの企画展です。金沢に生まれ、金沢美術工芸大学に学んだ鴨居玲。石川を代表する作家の一人ですが、全国に大勢のファンがおり、亡

くなられた九月には毎年のように問い合わせが寄せられます。代表作約百点に加え、鴨居が使用したイーゼル、筆、絵具などの道具類、作品のモチーフに使用したベレー帽や鞆、トラペットなどをセットで展示し、鴨居の人となりをつとめることのできる展覧会としています。この機会に鴨居の魅力に触れていただければと思います。

新春は「工芸にみる石川の巨匠」を開催します。東京や京都と並んで工芸の盛んな石川の地では、これまで全国に名を馳せる大勢の作家を輩出してきました。文化勲章受章者が四名、芸術院会員六名、重要無形文化財保持者(人間国宝)二十二名を数えます。本展では、それらすべての人々の作品を一堂に公開

するもので、これだけの作家がそろった展覧会は初めてのものとなります。石川の工芸を代表する作家の優れた技とその表現をご覧ください。

コレクション展示では、古美術部門・近現代美術部門すべての展示室で、当館が所蔵する作品、また寺社などからお預かりしている石川の美術の名品を、年間を通して紹介する一年としました。石川の美術のすばらしさに改めて気づいていただけることでしょう。それらとともに特別陳列として工芸展示室では「加賀象嵌つてなあに?」、彫刻展示室で「石川の近代彫刻をたずねて」を予定しています。

こうした展覧会に加え、当館が主催に加わる北陸中日新聞主催「北大路魯山人」をはじめ、恒例の「現代美術展」「日本伝統工芸展」院展」など二十三の企画展が予定されています。今年も、石川県立美術館の展覧会に足を運びください。

平成26年度の コレクション展を振り返って

平成二十六年度は四つの企画展と五つの特別陳列を行いました。

春は「**新紀元―革新の視座―**」と題した展覧会で、新たな表現世界を求めて創作をしてきた石川ゆかりの五人の作家を紹介しました。加賀谷武は本多の森公園から美術館までのロープインスタレーション、久世建二の陶によるタワーと人体は、九・一一テロと三・一一震災への哀悼表現で、これまでの当館には見られなかった世界でした。木下晋の鉛筆画、庄田雷寛のカラフルな線と色面、金属造形の先駆者で文化勲章受章者の蓮田修吾郎など、絵画・造形作品を通じて石川美術の重層性を改めて感じることができました。



新紀元―革新の視座―



工芸王国の実力 魅惑の120選



没後400年記念
高山右近とその時代

れた技と美を感じ取っていただけたことと思います。また前大峰の「松竹梅図屏風」は今回初公開となったもので、作者の力量を遺憾なく発揮したものと注目されました。

新春一月には「**没後四〇〇年記念 高山右近とその時代**」を開催しました。右近が生きた戦国時代から天下統一にいたる時代まで、貴重な資料や作品によって右近の生涯と人物像に迫りました。寒さの厳しい季節ではありましたが、右近に関心を寄せる多くの人が県内外から訪れました。

三月には、北陸新幹線開業記念「**色絵磁器の名陶 九谷焼**」を行いました。現在の石川を代表する産業の一つ九谷焼。江戸時代の古九谷・再興九谷から、明治・大正・昭和を経て現代にいたる作品の数々を色絵、赤絵、金彩、染付など多彩な表現を通してご覧いただきました。

集になるものです。第2展示室では「**北陸ゆかりの画聖たち―長谷川等伯・久蔵・左近・久隅守景―**」を行いました。高岡大法寺の重文「**釈迦多宝塔如来像**」「**鬼子母神十羅刹女像**」が出品され、来場者は信春時代の長谷川等伯に見入っていました。

近現代美術では、**稲元実**をとりあげ、「**いのちの花 稲元実展**」と題しました。前年の夏、六十六歳の若さで亡くなった日本画家で、生涯にわたる家族を主題とし、変容する家族の姿を描き続けたその全容を初期から晩年までの代表作で紹介しました。工芸では「**Motion & Still 塑造・桐塑 人形の美**」を行いました。石川の人形作家、紺谷力、井口十糸、山本榮子の三人を取りあげ、塑造人形・桐塑人形の美をお楽しみいただきました。

こうした特別陳列とは別に、特集展示も数多く開催しました。第3展示室では洋画の法昌利博、第5展示室では友禅の水野博など、展示室の一コーナーを活用したものでしたが、多くの関心を集めました。

秋の「工芸王国の実力 魅惑の120選」で

は、藩政時代より伝統技術が受け継がれてきた石川工芸の実力と魅力を再認識していただきました。松田権六の「蓬萊之棚」をガラスケースから特設台に出して展示し、扉の裏側や前後左右すみずみまでご覧いただきました。そのすぐ

特別陳列は、前田育徳会尊經閣文庫分館で

「**尊經閣文庫名品展―国宝 類聚国史―**」と「**加賀藩の美術工芸**」を開催しました。国宝「**類聚国史**」は現存最古の古写本で、五代前田綱紀の収

秋以降に開催した「キッズプログラム」と「学校出前講座」

石川県立美術館のコレクション展示室を、小学生親子の方々に楽しく鑑賞していただくキッズ・プログラムと、学校出前講座の様子をお伝えします。

まずは、十一月十五日開催の「石川県の家宝知ってる？」では、特集「石川の名宝」の展示を、「石川のお宝図鑑」というミニブック型のワークシート二冊に、文化財のシールを貼ったり書き込んだりしながらマイお宝図鑑を完成させ、石川県の文化財について学びました。

十二月十四日開催「絵の世界を旅してみよう」は、特集「風景画の魅力」の展示で、作家が出会った風景画の作品の中から、自分も行ってみたい風景画を選んで、セリフやそこでしてみたことを考えたり、四つの風景画を選んで四コマ漫画のようにストーリーを作るプログラムを体験したりしました。参加者からは「少し旅した気分になって得したかんじ」とのうれしい感想もいただきました。

一月二十五日開催は「茶道具あれこれはじめの竹工芸」と題して、竹



工芸の茶道具の鑑賞と、抹茶をいただくときに出されるお菓子を

食べるための菓子切りを作る体験のプログラムです。竹工芸作家の本江和美さんを講師にお迎えし、割った竹から菓子切りの形を小刀で削り出し、五段階の荒さの違うサンドペーパーで磨き上げて世界に一つのマイ菓子切りを完成させました。竹を小刀で削り出すのが難しい作業だっただけに、その菓子切りを使ってお菓子をいただいた時の参加者の皆さんの表情は、実に満足そうでした。



学校出前講座は九月から十一月にかけて、志賀町立下甘田小学校、白山市立東明・明光小学校、川北町立川北小学校、小松市立月津・安宅小学校、小松市立安宅中学校の六校で開催しました。近年は、図工科・美術科の授業における鑑賞方法ということが先生方の関心事になっており、この講座では担任の先生が図工科の授業をする小学校での開催がほとんどでしたが、今回は久しぶりに中学校での開催もありました。開催校は小松市立安宅中学校で、思春期を迎えた中学生は大きい集団で自分の意見を発表することへの抵抗も大きく、小学生と違った講座の進め方が必要であること学びました。しかし、中学生との対話型

鑑賞は小学生とは違った深い作品へのまなざしを感じる事ができ、私たち学芸員に新鮮な感覚を与えてくれました。スムーズに進められなかった点もありましたが、次なる中学校での開催の大きな糧になったと感じています。

また、以前から小学校ではご提案していた六年生の国語の教科書単元と絡めた出前講座開催が二校で行われました。これは「この絵、私はこう見る」という単元で、絵などの作品から読み取ったこと、感じたことを文章に表現する単元です。川北町立川北小学校では、出前講座の作品の中から自分で一作品を選び、その解説を書いて校内に掲示し、他学年に見てもらおうという取り組みをされました。美術館が講座を開催するという一方向だけでなく、このように講座開催を契機に学校が独自の取り組みをされたことは、この講座の新しい展開を感じました。



第13回バスツアー参加者募集 能登再発見！

期 日 平成二十七年四月二十六日(日)

集合時間 午前七時五〇分

発 着 金沢駅西口

参加代金 友の会会員 七、三〇〇円 / 会員以外 七、五〇〇円

募集定員 四十四名

◆見学地

【妙成寺】

重要文化財にも指定されている堂塔は、前田家によって江戸初期に造営されたもので、当時の雄大な雰囲気をしのばせます。

【七尾美術館】

「長谷川等伯展」を開催中です。国宝「楓図」の公開が話題を集めています。本ツアーでは、嶋崎丞館長の解説のもと、等伯を存分に堪能していただきます。

【能登島ガラス美術館】

「アール・ヌーヴオーのガラス」ガレ、ドームが愛した自然「展」を開催中です。建築家の毛綱毅曠もつなきこうによる独創的な建築も注目されます。

【能登島ガラス工房】

ガラス作品が実際に作られている工房の見学と、希望者のみ、ガラスを使ったアクセサリー制作体験を行います。体験には別途一、六二〇円が必要です。

【永光寺】

能登で最初の曹洞宗寺院といわれています。山岡鉄舟の襖書などがのこります。

◆申込方法

往復はがきに左記の事項を記入し、ご応募ください。応募者多数の場合は抽選になります。

① 往復はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号(会員のみのみ)、ガラス制作体験の希望の有無をお書きください。

② 返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書きください。消えるボールペンは使用しないでください。

③ 返信はがきの裏面には何も書かないでください。

◆宛先

〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一ー一
石川県立美術館 バスツアー係

◆応募締切

四月八日(水)必着

※応募者一名につき、往復はがき一通でのご応募ください。

※急な階段や歩きにくい道が行程に含まれます。

お知らせ

四月一日より、料金の軽減・免除に関して、次の通り一部変更になりました。これまで金沢21世紀美術館と連携していた相互割引に、新たに成巽閣が加わります。互いに観覧券の半券を呈示することで、当該施設が主催する企画展、コレクション展の観覧料が割引(団体料金)になります。

障がい者手帳等を所持する人(付き添いが必要な人数を含む)は、当館主催の企画展、コレクション展の観覧料が無料になります。

四月の行事予定

■土曜講座	午後1時30分～	聴講無料	美術館講義室
25日(土)	「前田利常の文化政策と古九谷」	村瀬博春	担当課長
■映像ギャラリー	午後1時30分～	入場無料	美術館ホール
26日(日)	「映画 金箔」	(26分)	「極める巧みの世界 剛の装・刀装甲冑金具 宮島市郎」(30分)

重文 茄子茶入 銘富士

重文 金小札白糸素懸緘胴丸具足 前田利家所用

国宝 太刀 銘光世作(名物 大典太)

重文 百工比照のうち「釘隠」

国宝 万葉集卷第三・第六残卷

国宝 土佐日記

国宝 日本書紀

次回の展覧会

会期:平成27年4月19日(日)~
6月7日(日)

		前田育徳会 尊經閣文庫分館	第2展示室	ご利用案内
		大名の装い — 武具・甲冑・陣羽織 —	優品選	
第3展示室	第4展示室	第5展示室	第6展示室	コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション展示室 無料の日(4月は6日) 今月の開館時間 午前9:30~午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00~午後7:00 年中無休
優品選 石川ゆかりの作家たち	優品選 石川ゆかりの作家たち	春の優品選	優品選 石川ゆかりの作家たち	
				4月の休館日は 15日(水)~18日(土)

広告

片山津温泉
22種のお風呂で
おくつろぎ下さい
<http://www.kagakankoh-hotel.co.jp/>

日本海の海の幸や加賀の美食なら



片山津温泉
加賀観光ホテル
〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉ウ 41
加賀観光ホテル予約センター 受付時間 9時~20時
Tel. 0761-74-1101

石川県立美術館だより
第378号(毎月発行)
2015年4月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>